

6 人権作文

「身近な人権問題」

3年2組 尾中 しずく

私は人権委員会の委員長をしています。これまで、様々な人権について考えてきましたが、私たちが扱う人権問題は、信じられないようなひどい内容や、こんなことが差別につながってしまうのかと驚くものばかりでした。そのため、二年生の頃までは、正直、人権問題や差別は自分には関係のないことだと感じていました。しかし、私は三年生へ進級するとき、思わぬ体験をしたのです。

今年の春、コロナの影響で家にいることが増え、それと同時に家族との会話も増えました。そこで、私は父に「来年の今頃は私も短大生だね。」と言いました。父とは進学に関する話をあまりしていなかったので、いい機会だと思ったのです。父は、「正直なんで女が進学したがるのかわからない。高校での学習で十分だと思っている。女は結婚して子どもを生んで子育てをして、暇なんだったらパートをしたらいいじゃないか。」と言いました。私は、とても嫌でした。ひどいことを言われたから嫌だったのではなく、自分の身近なところにこういう考え方をする人がいるというのが嫌で恥ずかしかったのです。

私の父は、昔、私に部落差別の話をしてくれたことがあります。私が、「学校で部落について学んだけれど、私は正直ピンとこなかった。私の住むところにもそういうことがあるの？」と聞くと、父は「お父さんが小さい頃はあったよ。」と言いました。父は「〇〇地区の子と遊んではいけない。」と言われたことがあるそうです。ですが、父はそんなことは気にせず誰とでも接する子どもだったと話してくれました。そして、「子どもは自分の生まれるところを選べないのに、そんな差別をするのはおかしい。そもそもその地区の人は何も悪いことをしていないのに……。」「お前は絶対差別をするような人間になるなよ。」と言ってくれました。だからこそ、今回の「女は家庭」という父の言葉は信じられないものでした。

父は仕事人間で、外の仕事は男の役割、家のことは女の役割という考えを持っているタイプです。父の時代はそれで十分幸せな暮らしができていたのかもしれませんが、しかし、これからの時代はどうでしょうか。自由を求める人が多くなりました。独身の人も増えています。結婚をしたとしても、子どもができるかどうかもわからないし、男性も子どもを育てることができる環境が整いつつあります。昔よりも働く女性が増え、女性でも稼ぐことのできる時代なのです。私としては、この考え方が普通で、父の考え方は古いという感覚だったのですが、私はここで気付いたのです。差別は、こんなふうに小さなすれちがいの塊なのだということ。

「差別をしたことや、差別をされたことがありますか。」と聞くと、半数以上の人は、うーんと少し悩んでから、「特にない」と答えるのではないのでしょうか。しかし、「自分を理不尽に否定されたことがありますか」と聞くと、大半の人が「ある」と答えると思うのです。差別や人権問題について、その言葉から受ける印象からか、ハードルが高くなってしまっていると私は思います。ささいなことでも大切にしなければならないということ、小さな感情でも同じ思いを持つ人が多ければ多いほど、大きく膨れあがっていくのだということに、私は気付いたのです。

その後、私は父としっかり話をしました。将来についてどう考えているのか、なぜ私が進学をしたいのか、進学予定の学校で学べる内容など、たくさん話しました。そして最後に、「今

は昔と違って働く女性もたくさんいる。自由に生きられる時代だからこそ、学びたいことがたくさんあるんだよ。だから、女性が学ぶことや働くことについて否定しないで。」と伝えました。父は頑固な人なので、私の考えを受け入れてくれるか不安でしたが、「嫌な考え方を押しつけようとしてしまいすまなかった。」と言ってくれました。今では、私の夢も将来も応援してくれています。

人権委員会では、実際に講演会や研修会に足を運んだり、人権啓発DVDを鑑賞したりして、人権について学んでいます。そこで見たこと、聞いたこと、感じたことを皆さんに伝えるのが私たち人権委員の仕事です。しかし、それだけではなく、こんな身近に差別の芽があるのだということ、そして、小さな思いでも集まれば大きな力になるのだということ、知ってもらいたいし、伝えていかなければならないと思っています。

生徒のみなさんの感想です。

- ★「女は家庭の仕事」確かにそのような考え方は少し違うかなと感じました。今では男女共に進学か就職の選択をしているし、夢や目標だってあります。なのに周りから差別されるのは、自分の考えを押しつけ支配するっていうイメージが自分の中にあるので、苦しくて辛いなと思いました。（1年生女子）
- ★男女差別について話していて、ドラマや漫画でしか見たこと聞いたことのない内容が先輩に起こっていてびっくりしました。友達や知り合いの人に男女差別をされても、「自分のやりたいことは自分で決める」と強く反抗できるけど、親に男女差別されたら反抗できないと思いました。でも先輩は、親の意見よりも自分の意見を優先して選択したので、すごいと思いました。（2年生女子）
- ★尾中さんの作文を聞いていると、身内に差別をするような人がいて悲しく思い、そこで自分の意見を話して聞いてもらうということが感心しました。私の場合だと、何も行動できず、何も言えないということが頭に浮かび、その地点で尾中さんとの違いに気付きました。人に意見を聞いてもらうと言うことは勇気もいるし、簡単なことではないです。だからこそ、聞いていてすごいと思いました。（2年生女子）
- ★「女は家事」という固定観念は、私も嫌でした。でも、それを理解してくれる人は本当に良い人だし、互いが嫌な思いをせずにいれるので、そういう心を持った人がたくさんいないといけない世の中になってきています。一人一人が自分にとって嫌なことを他人にしないように心掛ければ、差別というものもなくなると思います。（3年生女子）



尾中 しずくさんの発表の様子

「新型コロナウイルス感染症」もう、この言葉は聞き飽きたころだと思います。今では他人事ではなくて、とても身近でとても怖い感染症になりました。いまだに猛威を振るっています。

SNSをはじめとする様々なところで心ない言動が広がっていると聞きます。中傷被害を受けたり、デマを流されたりする人もいて、悲しい思いや不快な思いをしている人もたくさんいるはず。新型コロナウイルスを理由とした不当な差別・偏見・いじめはあってはいけません。不確かな情報や事実とは異なる情報が流されるのも問題です。こうした情報をむやみに転載したり拡散したりするのではなく、正しいかどうかきちんと確認し、自分で判断できるようになることが大事です。

私も、新型コロナウイルスで少し怖い思いをしました。四月の始めのころのことです。私の父が倦怠感とのどの違和感を訴えたのです。その二週間ほど前に姉の引っ越しの手伝いで、両親は大阪へ行っていました。私の両親は福祉関係の仕事をしているため、新型コロナウイルスには敏感で、十分に対策をしていたつもりでした。しかし、父が倦怠感に襲われたことで、まず頭に浮かんだ言葉は「コロナ」という三文字でした。父とはその日から同じ家の中ではありますが、会わないように行動をしました。父の仕事柄、早く診察をしてもらったほうが良いということになり、その日のうちにPCR検査を受けることになりました。「もしかしたら……」「もしも……」と悪い方向にばかり考えてしまいました。父が新型コロナウイルスに感染していたら、私は濃厚接触者になり、私の周りの人たちは、私の濃厚接触者になるのだと思いました。とても申し訳なく、謝るところではないなと思いました。その頃、愛媛県で初めて出た新型コロナウイルス感染者の方がデマを流されていました。私の家族も、そのような被害に遭うのではないかと考えてしまいました。「被害に遭う前に引っ越した方がいいのかな」「もう友達に会わせる顔はないのかな」など考え込んでしまいました。次の日には結果が出て、陰性ということがわかりました。少しほっとしました。一度怖い思いをしたので、今までよりももっと対策をしようと思うようになりました。

次の日、学校に行ってみると「大洲にコロナが出たらしいよ」という言葉を聞きました。私は、「県が発表していないから、デマじゃないかな」と伝えました。その噂は父のことではないかと考え、噂が広まるのは早いと思い悲しくなりました。検査をしたという事実が噂になり、陽性という話になったのではないかと、びっくりしました。デマとはこういうことから始まるのだと改めて感じました。この噂がもっと大きくなっていたらと考えると、とても怖いです。この怖さは自分自身のこととして感じなければわからないものなのではないでしょうか。私は、そうは思いません。相手の気持ちを考え、理解することはできると思います。

有名な志村けんさんの死などをきっかけとして、日本でも新型コロナウイルスの怖さを身近に感じるようになった気がします。それまでは、特に中傷被害などが激しかったようにも感じています。新型コロナウイルスを自分自身の身近な問題としてとらえ、相手の気持ちを考えることはとても大切です。感染したくて感染してしまった人はいないはず。医療従事者の方々、物流業者の方々、他にも日本のために、みんなのために、働いてくださっている方がたくさんいます。感謝をしなくては、と思います。そして、だからこそ、正しい情報や正しい知識が必要になってくると、私は思います。

新型コロナウイルスだけではなく、インターネットでの中傷被害のニュースをよく聞きます。

SNS上でいじめを受けて命を絶ったというニュースも耳にします。あってはならないことです。文字だけでは、その人の表情も感情もわかりません。時には、文字や言葉が凶器になってしまい、人を傷付けることもあります。それを理解した上で、インターネットやSNSを使用する必要があります。私は被害に遭ったことはありませんが、自分が被害者にも加害者にもならないように気を付けるようにしています。時には無意識に人を傷付けることがあるかもしれません。だからこそ、これからも相手の気持ちを考えた言動を心掛けます。

新型コロナウイルスが収束することを願うばかりです。そして、今だからこそ、みんなが共に幸せに生活することを考えなければならないと思っています。

生徒のみなさんの感想です。

- ★新型コロナウイルスの恐ろしさ、うわさの恐ろしさなど作者の思いが強く伝わってきたし、人の言葉の影響がとてつもない力を持っていることに気付けた。（1年生男子）
- ★新型コロナウイルスの話が心に残っています。県外の方へ出たり、松山の方へ出るだけで新型コロナウイルスに感染するのではないかと考えることがあります。最初の頃は、新型コロナウイルスに感染してしまった人への誹謗中傷が多くありました。嘘のデマを耳にしたことがあります。そのことから差別する意識が高まってくるのだと思いました。新型コロナウイルス感染症予防をしても、かかるときはかかると思います。予防はもちろん大事だと思いますが、その後の対応が大切になってくると思います。みんなが正しい知識を身に付けて、一人一人が気を付けることが大切だと思います。（3年生女子）
- ★新型コロナウイルスの影響で、SNSではデマを流したり誹謗中傷をしたりと、目に見えない攻撃が続いています。その言動は相手を傷付けているだけでなく、自殺に追いやることもあります。だから、絶対にしてはいけないと思いました。このような差別やいじめなど心ない行為は決してあってはならないもので、許されるものではありません。不確かな情報に惑わされないよう、正しい情報を持ち、理解を深めていくことが大切だと思います。みんなが思いやりのある行動をすれば、少しでも差別やいじめは減っていくと思いました。（3年生女子）



古川 叶歩さんの発表の様子

6 人権教育集会

12月17日（木）開催

昨年の12月17日に、人権教育集会を開催しました。例年通り、人権ポスター、人権標語、人権作文の優秀作品の表彰、人権作文優秀者の中から2名に発表してもらい、その後、人権委員会による大洲市高校生人権フィールドワークの参加報告を行いました。

(1) 人権ポスター(3作品)



食品デザイン科1年
伊東 芽生さん

《本人コメント》
人々の心が友達や家族を大切にしている思いやりのある暖かい春のような心になってほしいと思った。



食品デザイン科1年
井上 捺志さん

《本人コメント》
思いやりの心を皆が持てば、咲かない花も立派な笑顔となって咲くと思った。



食品デザイン科1年
渡邊 陽向さん

《本人コメント》
小さな思いやりの心が集まって、大きな幸せになってほしいという気持ちを込めた。

(2) 人権標語(9作品)



言葉は刃物のように鋭く心に突き刺さることもある。皆さんには、花束のような言葉をかけてほしいと思った。



自分が行動することでみんなが笑顔になれるかもしれない。だから、自分から笑顔を広げられたらいいと思った。



誰かが出しているSOSに、気付いていないこともあるのではないかと思います。この標語を作った。



悩み事があった時に、一人で抱え込まず、他の人に話して、少しでも楽になってほしいと思い、この作品を作った。



いじめの傍観者になっていく人が多くいる。見て見ぬ振りをするのではなく、いじめを止めてほしいと思った。



簡単に個人情報を言ったり、見せてはいけないというのを、みんなでしっかり守っていこうという思いを込めた。



人には必ず1つや2つは良いところがある。みんなにも自分のいいところを見つけて、自信を持ってほしいと思った。



「どうしたの?」その言葉にたくさん救われてきた。自分も人を助けてあげられる優しい人になりたいと思った。



お互いのいいところ、悪いところを認め合えば、いじめや差別はなくなると思ったので、この作品を作った。

今年度も素敵な人権標語をありがとうございました。来年度も、みんなの心に強く響くような人権標語を期待しています。たくさんのご応募ありがとうございました。



(3) 人権作文(5作品)

- ・生産科学科2年 森岡 亜希さん
- ・生産科学科3年 山中 友希さん
- ・食品デザイン科3年 尾中しずくさん
- ・食品デザイン科3年 古川 叶歩さん
- ・食品デザイン科3年 道岡 未来さん

この5名の中から、尾中さんと古川さんに作品を発表していただきました。

(4) 人権委員会の発表

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は、全国高校生集会が中止となりました。その代わりとして、大洲市で高校生人権フィールドワークを企画していただき、8月29日(土)に香川県へ研修に行きました。現地での研修やバスの中での研修を通して、各自が学んだことや感じたことを中心に報告しました。事前準備や練習を積み重ね、みんなの前で堂々と発表することができました。



(5) 人権委員長メッセージ 【人権委員長:尾中 しずくさん】

みなさん、お疲れ様でした。

私たちが企画した人権教育集会はいかがだったでしょうか。今日のテーマは「差別の現実を学ぼう」でした。私は2年間人権委員を務め、委員会活動を通して様々なことを学びました。

特に同和問題は正しい知識が必要で、それを学ぶことによって解決していく力となることができました。

今日は、人権問題について考えるきっかけとなったと思います。差別の現実を知り、学ぶことができたと思います。人権問題は、身近なところにある問題です。みなさんも、日頃の学校生活や家庭生活の中で、差別を見抜き、解決する力を身に付けていってください。私たち3年生はもう少しまいで卒業していきますが、1・2年生の皆さんは今日学んだことを生かして、差別のない充実した学校生活を送ってください。



(6) 生徒のみなさんから寄せられた人権教育集会に対する感想や意見

《人権ポスター・標語について》

- ★人権標語は短い文の中にその人の思いが書かれていて、心に残る作品ばかりだった。(1年生女子)
- ★人権標語は心温まるものが数多くあり、たくさんの人がこんなにすごい標語を作っていることに驚いた。(1年生男子)
- ★人権作品の表彰で、自分是人権標語の代表になった。いろいろな思いで標語を作ったので、認めてもらえたのはありがたかった。(3年生男子)

《人権作文について》

- ★人権作文を聞いて、身近な所にある人権に気づくことが大切なんだと思った。何気ないことのすれ違いで、差別を起こさないようにしたいと思った。（2年生女子）
- ★何気なく書いている人権作文や標語だけど、この活動が大切なんだと思った。（2年生女子）
- ★人権作文では、自分自身が発表する機会をいただいた。新型コロナウイルスで怖い思いをしたので、みんなにも考えてもらいたいと思った。（3年生女子）

《人権委員会の活動報告について》

- ★人権委員会の研修報告では、講演会に参加したり実際に現地へ行ったりして、自分たちがまだ知らないだけで、昔たくさんさんの差別に関する事件が起こっているのを知って驚いたし、自分でももっと調べてみたいと思った。（1年生女子）
- ★人権委員会の活動を知ることができた。コロナ禍の中で行われた研修に行かれた3年生の皆さんは、話を聞いたり実際の現場へ行ったりして、すごい経験をしたのだと思った。（2年生女子）
- ★人権教育集会は、分かりきっていることを再確認させてくれる場だと毎回思う。住んでいる場所の文化の違いにも理解が必要だし、少し苦手な人にも必ず良いところがあることも、優秀作品に選ばれた標語や作文、ポスター、人権委員が行った研修会も、自分が忘れていたことや知らなかったことも学べる場だなと感じた。（2年生女子）
- ★人権委員会の発表では、様々な人権問題を知ることができた。特に、結婚差別に悩んでいた19歳という若さで自殺した男女の話が印象深かった。自殺するほど苦しんだ2人の思いが、発表を聞いてしみじみと伝わってきた。差別の恐ろしさを知ることができたし、差別によって命を落としている人がたくさんいるという現実が辛かった。（3年生女子）
- ★自分は実際に現地へ行って見て、木元さんの話を聞いたりDVDを鑑賞したりして新しい発見をした。県外に行くことで、人権差別問題は県内だけの問題ではなかったと実感した。発表は少し緊張したけど、事前に何度も練習をしたおかげで、個人的には結構満足のいく発表だったと思う。（3年生男子）

《人権教育集会全体を通しての感想など》

- ★オープニングの曲は懐かしいと思いました。人権コンサートの時に感動する歌がたくさんあったので、また聴けて良かったです。（2年生女子）
- ★今日の集会で、改めて人権問題について考えることができた。自分には何ができるのか、何をしてはいけないのか考え、それを行動に移していきたい。（1年生男子）
- ★今までは、人権について真剣に考えることもなかったけれど、今日の人権教育集会を通して他人事ではなく自分もしっかり考えるべきだと思った。（2年生女子）
- ★今日の集会を通して、「差別は人のすれ違いからおきているもの」という言葉がすごく心に残り、これからの生活で差別やいじめが起こっても、ただ傍観しているだけじゃなく止められる人になりたいと思った。（2年生女子）
- ★約1時間という短い時間ではあったが、改めて人権について考え直すことができた。私たちの見えない知らないところで誰かが苦しみ悲しんでいることを思い知らされた。（3年生女子）



一年間の活動を終えて…

《人権委員の感想》

- ★人権について多く関わることができ、様々な人の気持ちになって考えることができました。（1年生女子）
- ★ホームルーム活動での運営や全校生徒の前で集会を開いたりして、自分の人権問題に関する考え方とかが変わったと思います。（1年生男子）
- ★たくさんの人権啓発DVDを見たり、人権教育集会を運営したりして、今まで知らなかった現実を知ることができました。（1年生女子）
- ★人権委員としての活動を通して、人権について考えることができました。（1年生女子）
- ★今年度は新型コロナウイルス感染症のため、昨年度行ったりんぽかんのつどいや交流活動が中止されて残念でしたが、校内の活動を通して、人権について考える機会が増えました。人権委員として活動し学んだことは忘れず、将来に生かしていきます。（2年生男子）
- ★人権委員として2年間活動してきました。1年生の頃に比べると、自分でも人権意識が向上したなと思います。来年度もよろしくお願いします。（2年生男子）
- ★人権・同和教育ホームルーム活動などで司会や進行をしたり、普段考えないようなことを見聞きして、差別は遠いものじゃなくて近い問題なんだなと思いました。これからは人権について学んでいきたいです。（2年生女子）
- ★人権委員会に入って、以前よりも人権のことについて深く知ろうと思うようになりました。来年度は人権委員長になって、活動を続けていきたいです。（2年生女子）
- ★3年間人権委員として活動を行いました。毎年講演会や人権教育集会の運営を行いました。準備や練習が大変でしたが、達成感を味わうことができました。また、毎学期に行う人権啓発DVDの視聴を通して、様々な人権問題を知ることができました。（3年生男子）
- ★今年度は人権フィールドワークに参加することによって、様々な人権問題について学ぶ機会がたくさんありました。この経験を生かして、これからは差別を増やさない取組をしていきたいです。（3年生男子）
- ★私は2年間人権委員として、今年度は人権委員長として活動してきました。その中で差別に対する考え方や向き合い方を学ぶことができました。差別に対する認識は一人一人違います。その違いを知り、お互いを尊重し合うことが大切なのだと気付きました。委員会の活動で学んだことを自分の人生に生かして生きたいです。（3年生女子）
- ★新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度は目立った活動はできなかったかもしれませんが、3年間人権委員をしてきて学んだことはたくさんあると思います。人権委員として活動してきて良かったです。（3年生男子）

「この1年を振り返って」

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、校外へ出かけての研修会や講演会はほとんどが中止になり、満足な活動ができず非常に残念に思っています。しかし、校内での活動は例年同様しっかり行えました。また、毎年参加している全国高校生集会が中止されましたが、大洲市の人権啓発課において代替措置として「人権フィールドワーク」を企画していただき、人権委員と共に参加しました。様々な人権問題について学ぶことができ、有意義な研修を行うことができました。

生徒たちの人権意識向上のために、来年度も充実した活動を行っていこうと思っています。そのためにも、君たち人権委員の積極的な参加が必要です。

人権委員になっていっしょに活動してみませんか？ 楽しいですよ。みなさんの加入を心よりお待ちしております。共に考え、共に学びましょう！（人権教育・教育相談課 尾田）



令和2年度大洲農業高等学校
人権委員会活動報告集

発行 愛媛県立大洲農業高等学校 人権委員会
〒795-0064 愛媛県大洲市東大洲15-1
TEL 0893-24-3101
発行日 令和3年3月